

『馬鹿を言ふない。』

あはてずにお曳き遊ばせ』

停車場の附近だから、一里半はある。

『二圓おくんなささ』と言ふ。

僕は細布を見ると金が無かつた。

内藤の家は閉つてゐて誰も居ない。

婢や子供が待つてゐますからと、車夫は泣き事を言ふ。

『でも仕方がないよ、俺を大方殺しよつたんだから、暫らく待つべし』

雨戸をあけて中に這入つて、十分ばかり経つと、辰公と門江女史が歸つて來た。

『何だ々々、酔つ拂つてゐやがる、どうしたんだ。』

大きな聲するな、金を拂つて好いのか』

澁々車夫に渡してくれた。

『キサマにドスの愛が解つてたまるか』